

COVID-19 流行下における歯科エックス線撮影の対応に関する指針

NPO 法人日本歯科放射線学会 2020 年 5 月 3 日

歯科エックス線撮影全般として、緊急性のない症例に対しては原則として行わないことを推奨する。真に緊急性があり撮影が必要な場合であっても、口内法エックス線撮影は唾液やエアロゾルが感染経路として懸念されるため極力行うべきではないが、やむを得ない場合は个人防护具 (PPE) 等、十分な感染対策のもとに撮影を行う必要がある。口内法の代替として、パノラマエックス線撮影あるいは歯科用コーンビーム CT (CBCT) が利用可能であるが、CBCT はアーチファクトや被曝線量に特段の配慮が必要であり、歯科放射線専門医へのコンサルテーションが求められる。

参考文献：

Hayashi T, Arai Y, Chikui T, Hayashi-Sakai S, Honda K, Indo H, Kawai T, Kobayashi K, Murakami S, Nagasawa M, Naitoh M, Nakayama E, Nikkuni Y, Nishiyama H, Shoji N, Suenaga S, Tanaka R. A Committee on Clinical Practice Guidelines, Japanese Society for Oral and Maxillofacial Radiology. Clinical guidelines for dental cone-beam computed tomography. Oral Radiol 2018;34:89–104.